

再評価結果（平成21年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：深澤 淳志

事業名	地域高規格道路 <small>みやこもりおか</small> 宮古盛岡横断道路 一般国道106号 <small>とんなんかわめ</small> 都南川目道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 東北地方整備局
起終点	自： <small>いわてけんもりおかしかわめだいごちわり</small> 岩手県盛岡市川目第五地割 至： <small>いわてけんもりおかしてしるもり</small> 岩手県盛岡市手代森			延長	6.0km
事業概要	<p>宮古盛岡横断道路は、岩手県の重要港湾都市である宮古市を起点とし、県都盛岡市へ至る地域高規格道路（延長約100km）である。</p> <p>都南川目道路（自動車専用道路）は宮古盛岡横断道路の一部を形成し、広域高速ネットワークの強化、安全安心な交通の確保等を目的とした延長6.0kmの2車線道路整備事業である。</p> <p>なお、当該道路は、平成20年度に実施したB/Cの点検結果を踏まえて、平成21年度事業の執行を見合わせ、再評価を行ったものである。</p>				
	H9年度事業化	H13年度都市計画決定	H17年度用地着手	H18年度工事着手	
全体事業費	257億円	事業進捗率	12%	供用済延長	0km
計画交通量	8,000台/日				
費用対効果分析結果 (3便益)	B/C (3便益) <small>(事業全体)</small> 1.1 <small>(残事業)</small> 1.3 * 全体B/C=1.1、 残事業B/C=1.4	総費用 (残事業)/(事業全体) 169/206億円 (事業費：160/197億円) 維持管理費：9.1/9.1億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 218/218億円 (走行時間短縮便益：202/202億円) (走行経費減少便益：12/12億円) (交通事故減少便益：4.4/4.4億円)	基準年 平成21年	
感度分析の結果	残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C=1.4(交通量 +10%) B/C=1.2(交通量 -10%) 事業費変動：B/C=1.2(事業費 +10%) B/C=1.4(事業費 -10%) 事業期間変動：B/C=1.1(事業期間 +20%) B/C=1.5(事業期間 -20%)				
事業の効果等	①産業支援 ・穀付きカキ(岩手県は日本を代表する産地)の市場への輸送効率向上 ・コネクタ製品(出荷額は日本第3位)の輸送効率向上 ②観光支援 ・岩手県を代表する主要な観光地(小岩井農場や浄土ヶ浜など)へのアクセス向上 ・観光交流促進を支援 ③医療支援「命の道」 ・3次救急医療施設へのアクセス向上(川井村及び盛岡市築川地区→3次救急医療施設 15分短縮)【約3.6億円※】 ④災害時等における交通の確保 ・当該道路の整備により、災害時等の迂回ルートが確保される【約0.3億円※】 ⑤冬期交通への支援 ・冬期の推雪、路面凍結による速度低下の軽減【約13.7億円※】 ※は、供用後50年間の便益額として試算した値(参考値)				
関係する地方公共団体等の意見	地域から頂いた主な意見等： ・H21年3月31日の費用便益比(B/C)の点検結果(1.0以下)を受けて、即座に盛岡市長、宮古市長、川井村長の連名で、「都南川目道路」の整備促進に関する緊急要望(平成21年4月3日)を受けている。 ・国道106号地域高規格道路整備促進期成同盟会(会長：宮古市長)にて、都南川目道路の事業継続を求める緊急決議案を決議。救急医療施設への搬送や緊急災害時の支援など宮古市と盛岡市をつなぐ一時も寸断することのできない重要道路である。(平成21年5月19日) ・都南川目道路は、救急患者を宮古市や川井村から盛岡市に搬送する際に使われる命の道路だ。1分1秒を争う救急医療活動において、この道路は重要である。(盛岡市長 平成21年6月3日意見聴取会より抜粋) ・本村には日本で唯一の森林博物館があり、それを活用し山村にしか出来ないメニューで交流人口の増加を目指している。山村を維持するための経済的な位置づけとして、地場産業の育成と交流人口増加のために必要な道路である。(川井村長 平成21年6月3日意見聴取会より抜粋) ・年間100回以上県立宮古病院から盛岡の病院へ救急搬送しており、3日に1回、多い日は1日2回、医師が同				

併し4時間も拘束されている。救急車も同様に拘束されており、時間短縮が望まれる。国道 106 号は命の道路であり、今回の凍結を一刻も早く解除してほしい。沿線住民の願いである。

(宮古市副市長 平成21年6月3日意見聴取会より抜粋)

- ・直轄事業の都南川目道路、県事業の築川道路は岩手県の中長期計画である「いわて希望創造プラン」に位置づけられている。都南川目道路が中止、遅延などとなった場合、県内の幹線道路ネットワーク形成に大きく影響する。(岩手県県土整備部 平成21年6月3日意見聴取会より抜粋)

事業評価監視委員会の意見:

- ・3便益以外の便益について、今回試算を行ったが、適切な評価方法の確立が必要であり、今後も研究を進めること。また、事業の特性等に応じて、3便益以外の便益についても検討すること。
- ・完成2車線に事業計画を見直した上で、事業継続が妥当である。

県知事の意見:

- ・都南川目道路は、宮古盛岡横断道路の一部を構成する道路で東北縦貫自動車道へのアクセスの向上や、安全で円滑な交通の確保を図るため、極めて重要。県としても関連する築川道路の整備を鋭意進めてきており、都南川目道路については、一層のコスト縮減に努め、事業を見合わせることなく引き続き整備促進を図ること。(岩手県知事からの意見 平成21年4月7日より抜粋)
- ・完成2車線とする国の見直し案に対し、本案で事業を再開することが妥当との判断が示されました。県としては、事業再開に向けて大きく前進したと捉えており、「命を守る道路」として関係市町村と共に取り組んできた結果であると受け止めています。今後は速やかに事業再開の決定が行われるよう、関係市町村と連携して国に求めて参りたいと考えています。(岩手県知事コメント 平成21年7月22日付け報道発表資料より抜粋)

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

当該道路に隣接する築川道路(岩手県施工 L=7.0km)について、平成24年度供用予定であり、当該事業との相乗効果が見込まれる。

事業の進捗状況、残事業の内容等

【執行済み額】事業費：32億円(進捗率12%) うち用地費・補償費：9億円(進捗率57%)

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

道路構造の見直し(完成4車線→完成2車線)による調査設計を行うとともに、用地買収及び工事を進め、全線供用を目指す。

施設の構造や工法の変更等

道路構造の見直し(完成4車線→完成2車線)。【約43億円の減少】

対応方針

見直し継続

対応方針決定の理由

以上の事業の効果及びコスト縮減等の内容、事業評価監視委員会における審議、知事等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

* 3便益に、費用便益分析マニュアルに規定のある便益の試算値を加え、費用で除した場合のB/Cの値。